

# 環境保全

事業活動に伴うエネルギーや資源の投入量、製品の生産量、環境負荷物質の排出量を把握し、省エネルギー、化学物質の排出削減、廃棄物の適正管理など環境保全に積極的に取り組んでいます。

※2018年度のデータについては、一部見直し、修正しています。

## 北興化学工業の事業活動とインプット、アウトプット (集計範囲：当社単体 集計期間：2018年12月1日～2019年11月30日)



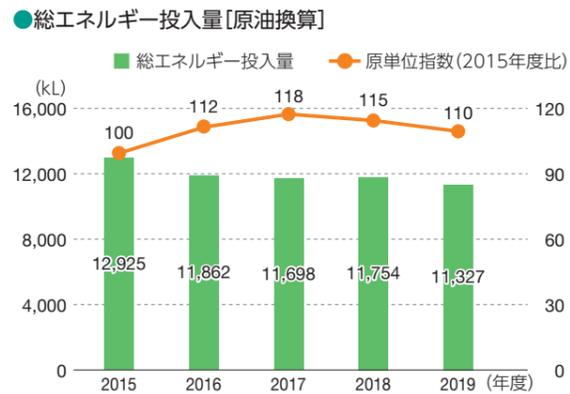
\*1 有害大気汚染物質(優先取組物質)のうち、当社において排出量の多い物質のみを記載しています。

## 省エネルギーの推進

全社的なエネルギー管理体制を整え、設備、製造工程のさらなる見直し、LED照明をはじめとする省エネルギー設備の導入など、省エネルギー活動を推進しています。

2019年度の総エネルギー投入量は、2018年度比で3.6%減少し、エネルギー原単位\*2は、2018年度比で4.4%減少しました。

\*2 エネルギー原単位については、事務所ごとの原単位変化率の加重平均から全体の原単位変化率を求め、2015年度を100とする原単位指数であらわれています。

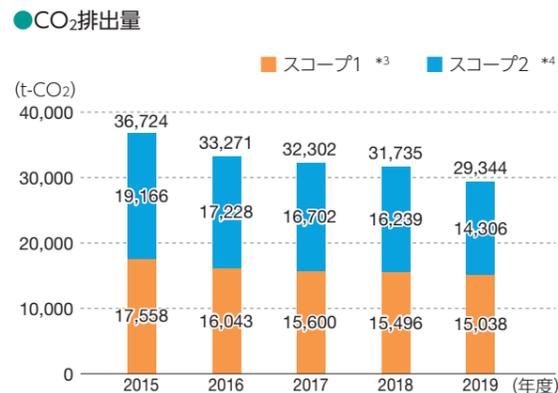


## 温室効果ガスの排出削減

エネルギーの使用、廃棄物の焼却により、温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>が発生します。当社では、省エネルギーを推進することで、CO<sub>2</sub>の排出抑制に努めています。2019年度のCO<sub>2</sub>排出量は、エネルギー使用量の減少により、2018年度比で7.5%減少しました。

\*3 スコープ1：燃料の燃焼などによる直接排出量

\*4 スコープ2：他社から供給された電気の使用に伴う間接排出量



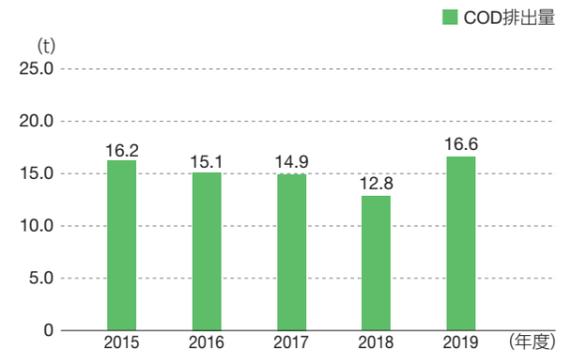
## 水質汚濁の防止

製造工程から発生した排水は、中和・活性汚泥・凝集沈降処理などにより、水質汚濁物質を取り除いてから、河川、海域に排出しています。排出にあたっては、法令などの規則に基づき適切に監視、測定を行っています。

2019年度は、岡山工場において、排水処理設備を増設し、処理水質の安定化を図りました。

\*5 COD：Chemical Oxygen Demand(化学的酸素要求量)  
排水中の有機物汚濁をあらわす一つの指標で、数値が高いほど有機物により汚れていることを示しています。COD排出量は、平均COD×年間排水量で算出しています。

## ●COD\*5排出量



## 廃棄物の適正管理

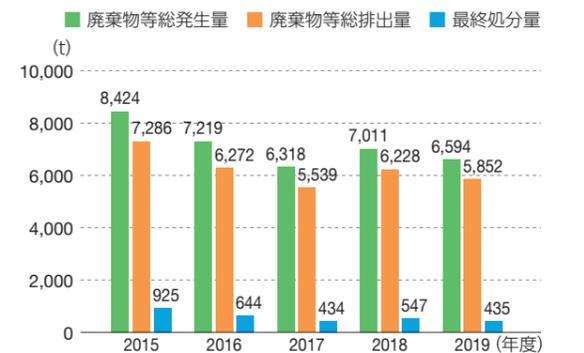
廃棄物については、3R(発生抑制:Reduce、再利用:Reuse、再生利用:Recycle)の推進、適正処理に取り組んでいます。

やむを得ず発生した廃棄物のうち、事業所において処理できるものについては、処理基準に従い焼却処理を行っています。事業所において処理できない廃棄物については、処理業者に処理を委託していますが、業者の選定にあたっては、現地確認などを行うことにより信頼できる業者を選定しています。

2019年度の廃棄物等\*6総発生量は、2018年度比で5.9%減少しました。

\*6 廃棄物等：廃棄物および製品の製造に伴い副次的に発生するもの(古紙や金属などの有価物も含む)。

## ●廃棄物等総発生量・総排出量、最終処分量



## 事業所別データ

### ●2018年度および2019年度 事業所別環境負荷データ

項目	北海道工場		新潟工場		岡山工場		開発・化成品研究所	
	2018	2019	2018	2019	2018	2019	2018	2019
エネルギー使用量(原油換算) (kL)	214	230	782	868	10,147	9,576	610	654
上水道使用量 (千m <sup>3</sup> )	3.8	3.7	16.1	18.0	370	393	9.2	10.1
CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> )	554	583	1,576	1,749	28,585	25,945	1,020	1,067
SO <sub>x</sub> 排出量 (t)	0.4	0.2	0.0	0.0	6.2	5.9	0.0	0.0
NO <sub>x</sub> 排出量 (t)	0.1	0.2	0.1	0.2	12.1	11.7	0.9	0.5
総排水量 (千m <sup>3</sup> )	3.8	3.7	13.2	11.9	2,398	1,915	5.7	7.1
COD排出量 (t)	0.02	0.02	0.02	0.01	12.7	16.6		
廃棄物等総排出量 (t)	92	96	397	422	5,537	4,986	96	85